

## 地域検討会議で寄せられた意見の反映状況等

	意見等	反映状況等
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校規模によらず、平等公平に高校教育を受けられるようにしていただきたい。</li> <li>小規模校・大規模校それぞれの特性を活かして、子ども中心の教育を推進していくべきである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校規模の大小に関わらず、各校が特色・魅力ある教育活動を展開することが重要である等とし、望ましい学校規模を設定しない。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 学級校も含めた各地域の学校をできるだけ維持するという方針を継続していただきたい。</li> <li>地域に根ざした活動を行っている高校については存続を求める。</li> <li>地方活性化の観点からも、地域に高校があることには大きな意味がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 学年 1 学級校の存在が、高校を核とした地方推進に大きな役割を果たしている地域において、所在する自治体等と連携することで教育活動の充実が図られている場合、1 学年 1 学級校の普通高校については「地域校」とし、地域における学びの機会を保障する。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域全体で人手不足が深刻化している中、専門学科の充実による人材育成が必要である。</li> <li>専門高校は、地域の基幹産業を支える重要な役割を果たしており、最新設備の導入や学科の最適化な等の環境整備を進めることが重要である。</li> <li>必要な資質・能力を備えるためには、ある程度の規模を有する学校が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業、工業、商業の専門分野の中心的役割を担う専門高校については、学校規模を維持することにより、専門分野の多様な学びの機能を有する職業教育のセンター・スクールとして、教育内容の充実を図る。なお、農業高校は1 学年 4 学級以上、工業高校は1 学年 5 学級以上、商業高校は1 学年 4 学級以上を学校規模の原則とする。</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>入学生確保のため、県の魅力化推進事業との連携を希望する。</li> <li>いわて留学の取組に対し、県教委から市町村に対する支援を実施していただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域連携コーディネーターの配置支援、新たに配置されたコーディネーターの資質向上や地域内外との連携強化の取組等について、国の動向や他県の状況を踏まえ推進する。</li> <li>高校、市町村に対して県外生徒の受け入れ体制の整備等に係る伴走支援を推進する。</li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門高校において、子ども達が進んで通いたくなるような、特色ある高校づくりを進めて欲しい。</li> <li>地元産業のニーズを満たすための、即戦力となる専門教育が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>盛岡工業高校について、地域振興の方向性や産業構造、中学生の志望動向、高校卒業後の進路状況等を見据え、令和 10 年度に学科の改編を行ったうえで、令和 12 年度を目途に旧盛岡南高校の校舎及び施設等を活用した教育環境の整備をする。</li> <li>黒沢尻工業高校について、地域振興の方向性や産業構造、中学生の志望動向、高校卒業後の進路状況等を見据え、令和 9 年度に既存の 1 学科を半導体関連の学科へ改編する。</li> <li>宮古水産高校については、水産及び調理師養成施設の学びのバランスを考慮して、令和 10 年度に県立高校の水産及び調理師養成施設の学びを集約し、機能の重点化を図る。</li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合学科高校については、県としてその在り方を検討する時期に入っているのではないかと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の産業構造やニーズを踏まえた系列編成や学びの内容となるよう、系列の見直しや学びの在り方等について検討するとともに、総合学科高校の今後の在り方について、前期計画期間中に検証を行い、方向性を検討する。</li> </ul>



## 宮古地区の県立高校の状況

## 1 募集学科・在籍生徒数等（令和7年度：全日制）

学校名	募集学科(定員)	募集定員	全校学級数	在籍生徒数	備考
山 田	普通(40)	40	3	72	
宮 古	普通(200)	200	15	489	
宮古北	普通(40)	40	3	60	
宮古商工	【工業】機械システム(40)、電気システム(40)、 【商業】総合ビジネス(40)、流通ビジネス(40)、情報ビジネス(40)	200	15	412	
宮古水産	【水産】海洋生産(40)、【家庭】食物(40)	80	6	107	
岩 泉	普通(80)	80	6	116	

## 2 入試の状況

学校名	学科	R5				R6				R7			
		定員	総志願者	合格者	定員差異	定員	総志願者	合格者	定員差異	定員	総志願者	合格者	定員差異
山 田	普通	40	27	25	▲15	40	32	32	▲ 8	40	18	18	▲22
宮 古	普通	200	168	168	▲32	200	188	186	▲14	200	153	151	▲49
宮古北	普通	40	26	25	▲15	40	22	22	▲18	40	21	21	▲19
宮古商工	機械システム	40	19	21	▲19	40	28	27	▲13	40	16	16	▲24
	電気システム	40	14	18	▲22	40	12	11	▲29	40	11	11	▲29
	総合ビジネス	40	44	40	0	40	47	40	0	40	35	35	▲ 5
	流通ビジネス	40	30	40	0	40	33	36	▲ 4	40	36	34	▲ 6
	情報ビジネス	40	58	40	0	40	13	15	▲25	40	39	39	▲ 1
宮古水産	海洋生産	40	12	12	▲28	40	9	10	▲30	40	7	9	▲31
	食物	40	34	31	▲ 9	40	30	28	▲12	40	25	22	▲18
岩 泉	普通	80	40	40	▲40	80	37	37	▲43	80	41	41	▲39
宮古地区計		640	472	460	▲180	640	451	444	▲196	640	402	397	▲243

### 3 市町村の中学校卒業者の推移 (R7.5.1時点)

第3期県立高等学校再編計画期間(R8~R17)

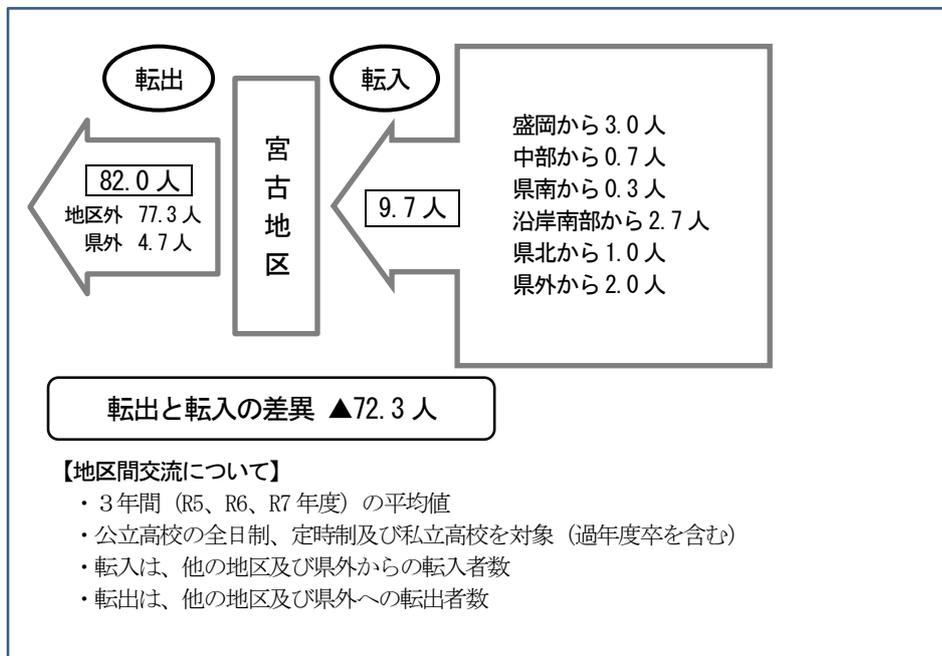
※中段：対前年比、下段：対R7年比

	R7年3月	R8年3月	R9年3月	R10年3月	R11年3月	R12年3月	R13年3月	R14年3月	R15年3月	R16年3月	R17年3月	R18年3月	R19年3月	R20年3月	R21年3月
宮古	336	300	338	333	299	317	317	287	252	263	246	228	213	215	190
		-36	38	-5	-34	18	0	-30	-35	11	-17	-18	-15	2	-25
		-36	2	-3	-37	-19	-19	-49	-84	-73	-90	-108	-123	-121	-146
*田老	19	13	23	11	19	14	9	12	9	10					
		-6	10	-12	8	-5	-5	3	-3	1					
		-6	4	-8	0	-5	-10	-7	-10	-9					
山田	99	92	89	97	93	77	96	97	91	71	71	65	67	62	58
		-7	-3	8	-4	-16	19	1	-6	-20	0	-6	2	-5	-4
		-7	-10	-2	-6	-22	-3	-2	-8	-28	-28	-34	-32	-37	-41
宮古地域	435	392	427	430	392	394	413	384	343	334	317	293	280	277	248
		-43	35	3	-38	2	19	-29	-41	-9	-17	-24	-13	-3	-29
計		-43	-8	-5	-43	-41	-22	-51	-92	-101	-118	-142	-155	-158	-187
岩泉	51	55	51	57	49	38	45	56	37	30	33	34	31	24	23
		4	-4	6	-8	-11	7	11	-19	-7	3	1	-3	-7	-1
		4	0	6	-2	-13	-6	5	-14	-21	-18	-17	-20	-27	-28
田野畑	18	23	29	21	24	16	15	19	18	7	16	12	7	7	7
		5	6	-8	3	-8	-1	4	-1	-11	9	-4	-5	0	0
		5	11	3	6	-2	-3	1	0	-11	-2	-6	-11	-11	-11
岩泉地域	69	78	80	78	73	54	60	75	55	37	49	46	38	31	30
		9	2	-2	-5	-19	6	15	-20	-18	12	-3	-8	-7	-1
計		9	11	9	4	-15	-9	6	-14	-32	-20	-23	-31	-38	-39
宮古	504	470	507	508	465	448	473	459	398	371	366	339	318	308	278
		-34	37	1	-43	-17	25	-14	-61	-27	-5	-27	-21	-10	-30
地区計		-34	3	4	-39	-56	-31	-45	-106	-133	-138	-165	-186	-196	-226

\* 合併前の旧市町村名(内数)

卒業生 現中3 中2 中1 小6 小5 小4 小3 小2 小1 5才・4才 4才・3才 3才・2才 2才・1才 1才・0才

### 4 地区間交流の状況 (3年間の平均)



5 入学者の推計 (R7.5.1時点)

第3期県立高等学校再編計画期間(R8~R17)

学校	学級数	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20	R21
山田	1	18	22	21	23	22	18	23	23	21	17	17	15	16	15	14
宮古	5	151	141	153	152	140	140	145	136	120	117	112	104	98	97	87
宮古北	1	21	19	22	20	19	19	19	18	15	16	15	14	13	13	12
宮商工	5	135	117	128	128	115	120	123	114	100	101	95	88	83	83	74
宮古水	2	31	30	32	33	30	30	31	29	26	25	24	22	21	21	19
	参考値		31	33	34	31	31	33	30	27	27	25	23	22	22	20
岩泉	2	41	39	39	40	36	29	32	38	28	22	25	24	21	18	17
計	16	397	368	395	396	362	356	373	358	310	298	288	267	252	247	223
必要学級		10	10	10	10	10	9	10	9	8	8	8	7	7	7	6
参考値計			369	396	397	363	357	375	359	311	300	289	268	253	248	224
参考値必要学級数			10	10	10	10	9	10	9	8	8	8	7	7	7	6

【入学者推計について】

- ・ R 7は実績値（入学者数は、合格者数と異なることがある）
- ・ 過去3年間の入学実績、及び中学校卒業予定者数推移に基づいて算出したもの
- ・ 網掛けはR 7年度募集定員より40名以上の欠員又は20名以下の見込みを示す
- ・ 「参考値」は県境隣接協定及びいわて留学における他県からの入学生の推計を加えた値



## 令和7年度の入試状況について（県立高校全日制）

年 度	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
中 学 校 卒 業 者 数	10,677	10,092	10,396	10,077	9,954	9,675
募 集 定 員	8,960	8,960	8,920	8,720	8,680	8,520
総志願者数	8,197	7,670	7,969	7,601	7,483	6,897
合 格 者 数	7,491	7,194	7,219	6,910	6,804	6,531
欠 員	▲1,469	▲1,766	▲1,701	▲1,810	▲1,876	▲1,989
調整後志願倍率	0.87	0.82	0.85	0.82	0.80	0.80

令和7年度岩手県立高等学校募集定員・合格者数等（全日制）

地区	学校名	大学科	学科・学系・コース	募集定員	合格者数	過不足数	総志願者数	
盛岡	盛岡第一	普通・理数	普通・理数	280	287	▲7	331	
	盛岡第二	普通	普通	200	195	▲5	196	
	盛岡第三	普通	普通	280	286	▲6	324	
	盛岡第四	普通	普通	240	246	▲6	298	
	盛岡北	普通	普通	200	200	0	241	
	南昌みらい	普通	文理	160	161	▲1	184	
		普通	芸術	40	34	▲6	34	
		普通	外国語	40	36	▲4	34	
	盛岡農業	普通	スポーツ科学	80	80	0	93	
		農業	動物科学	40	35	▲5	35	
		農業	植物科学	40	13	▲27	12	
	盛岡工業	農業	食品科学	40	42	▲2	51	
		農業	人間科学	40	35	▲5	28	
		農業	環境科学	40	18	▲22	18	
		工業	機械	40	37	▲3	39	
		工業	電気	40	40	0	40	
		工業	電子情報	40	40	0	44	
		工業	電子機械	40	38	▲2	39	
		工業	工業化学	40	11	▲29	8	
		工業	土木	40	36	▲4	37	
		工業	建築・デザイン	40	40	0	42	
	盛岡商業	商業	流通ビジネス	80	82	▲2	97	
		商業	会計ビジネス	80	82	▲2	91	
		商業	情報ビジネス	80	82	▲2	98	
	沼宮内	普通	普通	40	21	▲19	22	
	葛巻	普通	普通	80	42	▲38	42	
	平舘	普通	普通	40	16	▲24	16	
	雫石	家庭	家政科学	40	3	▲37	3	
		普通	普通	40	39	▲1	41	
	14	紫波総合	総合	総合	120	86	▲34	88
	中部	花巻北	普通	普通	240	217	▲23	223
		花巻南	普通	人文科学・自然科学	120	115	▲5	113
			普通	スポーツ健康科学	40	40	0	42
		花巻農業	普通	国際科学	40	24	▲16	24
			農業	生物科学	40	36	▲4	38
			農業	環境科学	40	22	▲18	22
		花北青雲	農業	食農科学	40	34	▲6	34
			工業	情報工学	40	28	▲12	28
			商業	ビジネス情報	80	80	0	81
		家庭	総合生活	40	29	▲11	29	
		大迫	普通	普通	40	15	▲25	15
		遠野	普通	普通	120	108	▲12	113
遠野緑峰		農業	生産技術	40	21	▲19	21	
黒沢尻北		商業	情報処理	40	8	▲32	8	
		普通	普通	240	196	▲44	205	
北上翔南		総合	総合	160	126	▲34	127	
黒沢尻工業		工業	機械	40	29	▲11	29	
		工業	電気	40	25	▲15	27	
	工業	電子	40	25	▲15	25		
	工業	電子機械	40	24	▲16	26		
	工業	土木	40	13	▲27	13		
	工業	材料技術	40	14	▲26	13		
	普通	普通	80	67	▲13	69		
11	西和賀	普通	普通	80	67	▲13	69	
県南	水沢	普通・理数	普通・理数	240	232	▲8	242	
	水沢農業	農業	農業科学	40	18	▲22	19	
		農業	食品科学	40	12	▲28	13	
	水沢工業	工業	機械	40	21	▲19	22	
		工業	電気	40	20	▲20	20	
		工業	設備システム	40	30	▲10	30	
		工業	インテリア	40	17	▲23	17	
	水沢商業	商業	商業	40	28	▲12	27	
		商業	会計ビジネス	40	24	▲16	23	
		商業	情報システム	40	40	0	44	
	前沢	普通	普通	40	32	▲8	33	
	金ヶ崎	普通	普通	80	20	▲60	20	
	岩谷堂	総合	総合	120	81	▲39	81	
	一関第一	普通・理数	普通・理数	200	200	0	213	
	一関第二	総合	総合	200	202	▲2	217	
	一関工業	工業	電気電子	40	38	▲2	41	
		工業	電子機械	40	40	0	43	
		工業	土木	40	19	▲21	22	
	花泉	普通	普通	40	40	0	41	
	大東	普通	普通	80	27	▲53	27	
商業		情報ビジネス	40	3	▲37	3		
千厩	普通	普通	120	78	▲42	80		
	農業	生産技術	40	28	▲12	30		
	工業	産業技術	40	34	▲6	34		

地区	学校名	大学科	学科・学系・コース	募集定員	合格者数	過不足数	総志願者数
沿岸南部	高田	普通	普通	120	115	▲5	115
	大船渡	水産	海洋システム	40	11	▲29	11
		普通	普通	160	135	▲25	140
	大船渡東	農業	農芸科学	40	12	▲28	12
		工業	機械電気科	40	22	▲18	22
		商業	情報処理	40	20	▲20	20
	住田	家庭	食物文化	40	24	▲16	24
		普通	普通	40	24	▲16	24
		釜石	普通・理数	普通・理数	160	145	▲15
	釜石商工	工業	機械	40	27	▲13	27
工業		電気電子	40	12	▲28	12	
商業		総合情報	40	16	▲24	16	
7	大槌	普通	地域探究	80	58	▲22	58
宮古	山田	普通	普通	40	18	▲22	18
	宮古	普通	普通	200	151	▲49	153
	宮古北	普通	普通	40	21	▲19	21
	宮古商工	工業	機械システム	40	16	▲24	16
		工業	電気システム	40	11	▲29	11
		商業	総合ビジネス	40	35	▲5	35
		商業	流通ビジネス	40	34	▲6	36
	宮古水産	商業	情報ビジネス	40	39	▲1	39
		水産	海洋生産	40	9	▲31	7
	6	岩泉	普通	普通	80	41	▲39
久慈		普通	普通	160	137	▲23	137
久慈翔北		工業	工業	40	15	▲25	15
8	種市	総合	総合	200	124	▲76	124
		普通	普通	40	10	▲30	11
	工業	海洋開発	40	11	▲29	11	
	大野	普通	普通	40	13	▲27	13
	軽米	普通	普通	80	31	▲49	31
	伊保内	普通	普通	40	23	▲17	24
	福岡	普通	普通	160	82	▲78	83
北桜	工業	機械システム	40	23	▲17	23	
	工業	電気情報システム	40	14	▲26	14	
総合	総合	120	87	▲33	88		

計 59 113学科（学系）

8,520 6,531 ▲1,989 6,897

※参考<市立>

学校名	大学科	学科・学系・コース	募集定員	合格者数	過不足数	総志願者数
盛岡市立	普通	特別進学コース	35	38	3	43
	普通	普通	160	164	4	194
	商業	商業	80	82	2	96
計 1			275	284	9	333

## 今後の県立高校に関する地域検討会議（第1回） 開催結果

## 1 実施時期

令和7年5月20日（火）～6月5日（木）の間（実施日は4 実施状況参照）

## 2 目的

「県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～」を踏まえ、各地区における高校のあるべき姿や地域の実情に応じた高校や学科の配置等について、地域の代表者等と意見交換（「地域検討会議」）を行い、次期県立高等学校再編計画の検討に資する。

## 3 第1回会議内容

- (1) 「県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～」についての概要説明
- (2) 地域の高校に関する状況等の説明
- (3) 各地区における高校及び学科の配置の在り方等についての意見交換

## 4 実施状況

地区名	地区内の市町村名	実施期日	会場	出席者数				
				地区代表	県議会議員	地区校長等	傍聴者(報道)	地区計
盛岡 (盛岡①)	盛岡市、雫石町、葛巻町、矢巾町	令和7年 5月20日	岩手県水産会館	20	9	16	7	52
盛岡 (盛岡②)	八幡平市、岩手町、滝沢市、紫波町	令和7年 5月27日	岩手県公会堂	19	4	5	7	35
中部	花巻市、北上市、遠野市、西和賀町	令和7年 5月23日	花巻市定住交流センター	20	7	12	19	58
県南	奥州市、金ヶ崎町、平泉町、一関市	令和7年 5月28日	奥州市役所 江刺総合支所	20	9	11	15	55
沿岸南部	陸前高田市、大船渡市、住田町、釜石市、大槌町	令和7年 6月4日	三陸公民館	22	1	9	8	40
宮古	宮古市、山田町、岩泉町、田野畑村	令和7年 6月5日	宮古地区 合同庁舎	19	2	7	18	46
県北 (県北①)	久慈市、洋野町、野田村、普代村	令和7年 5月26日	久慈地区 合同庁舎	16	2	5	9	32
県北 (県北②)	二戸市、一戸町、軽米町、九戸村	令和7年 5月23日	二戸地区 合同庁舎	18	2	5	11	36
計				154	36	70	94	354



## 地域検討会議（第1回）の主な意見等

ブロック	開催日	主な意見・提言等
盛岡① (盛岡市、雫石町、 葛巻町、矢巾町)	令和7年 5月20日(火) 10:00～12:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国の就学支援金の所得制限撤廃により、進学費用の面でハードルが下がり、中学生が私立高校に進学しやすい状況になることが予想される。少子化に伴い、生徒数の減少が進む中、私立高校との共存や定員調整についての慎重な議論が必要になると感じている。</li> <li>・ 中学生の進路の選択肢を閉ざさぬよう、今後、1学級校の在り方については、柔軟な対応が大切である。また、盛岡市一極集中を是正する募集定員の調整や、私立高校と募集人数の調整等の検討も必要である。</li> <li>・ 高校には、地元の産業ニーズに応じた人材育成を進めて欲しいと感じており、地元根付いた産業の専門コースを設置することもよいのではないかと。</li> <li>・ 充実した高校生活を保障するためには、高校の適切な規模を維持する必要があると感じている。県立高校再編計画の策定の際にはその点も踏まえて慎重に検討していただきたい。</li> <li>・ 地域課題の解決に向け、知事部局や産業界と協力し、人材育成をより戦略的に進めるべきだと考えている。その際に、専門高校の担う役割は非常に重要である。</li> </ul>
盛岡② (八幡平市、岩手町、 滝沢市、紫波町)	令和7年 5月27日(火) 10:00～12:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現計画において1学級校の入学者数が2年連続で20人以下の場合は原則として統合とされている一方、1学級校も含めた各地域の学校をできるだけ維持するということが記載されている。次期県立高校再編計画においても、この方針を継続していただきたい。</li> <li>・ 今後、生徒数が減少する中、生徒が自分の将来に向けて多様な学びを選択できる環境や、県内各地域の特色を生かした学びの環境を引き続き作っていただきたい。</li> <li>・ 今後の教育政策を考えたときに、公立と私立の共存に踏み込まなければ、根本的な問題解決にはならないのではないかと。</li> <li>・ 地域産業の伝承や人材育成に向けた学びを充実させるため、専門高校の教育内容を地域産業と連携させ、専門分野に特化した学びの場を作る等、専門高校を差別化、個別化していくことが必要ではないかと。</li> <li>・ 国の制度として総合学科が設立されて約20年が経過したところであり、県としてその在り方を検討する時期に入っているのではないかと。</li> </ul>
中部 (花巻市、北上市、 遠野市、西和賀町)	令和7年 5月23日(金) 10:00～12:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医学部進学に関しては、県内志願者の学力の課題が指摘されており、中高一貫教育等を通じた学力向上が不可欠であると考えます。</li> <li>・ 黒沢尻工業高校のように、半導体などの最先端分野に対応した独自のカリキュラムを導入する学校の取組を評価し、今後は志願者増と理工系人材の育成に繋がるよう専門学科の魅力化及び充実を求めたい。</li> <li>・ 専門高校において、子どもたちが進んで通いたくなるような、特色ある高校づくりを進めて欲しい。</li> <li>・ 少子化に伴い定員割れが常態化する中で、受検に対する緊張感やモチベーションが薄れている。定員の見直しや競争率の適正化によって学習意欲を高める工夫が必要ではないかと。</li> <li>・ 各学校が独自性を持ち、ブランド化していくことが求められる。地元教育委員会としても小中学校と連携し、地域全体で教育の質を高める取組を進めたい。</li> <li>・ 不登校・不適應の生徒の進路確保が課題であり、小規模校による温かい対応や学びの多様性へのニーズが高まっている。チャレンジスクールの公立での拡充が望まれている。</li> </ul>

ブロック	開催日	主な意見・提言等
<p>県南 (奥州市、金ヶ崎町、平泉町、一関市)</p>	<p>令和7年 5月28日(水) 10:00～12:00</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 私立高校への進学率が15.7%に達しており、授業料無償化や魅力向上策によって公立高校からの流出が懸念される。今後は、人口減少と公立高校への進学者数減少の影響を踏まえた公立高校の戦略的対応が求められる。</li> <li>・ 農業、工業、商業などの専門高校は、地域の基幹産業を支えるために重要な役割を果たしている。最新設備の導入や学科の最適化などを通じ、地域産業の人材育成に貢献できる環境整備を進めることが重要である。</li> <li>・ 今後、高校を再編する場合は、生徒の学びを保障するために、学びの地域バランスに配慮しながら進めていただきたい。</li> <li>・ 人口減少と少子化の影響を受け、中学生の進路選択の多様性を確保するために、県立高校の再編を6地区の広域化で検討する必要性を認識している。</li> <li>・ 生徒やその保護者の希望する学びと地元自治体が希望する学びが一致しておらず、乖離が見られる。また、農業や工業等を専門的に学んでも、地元就職するとは限らず、県外就職の割合も多くなっている。専門教育の在り方の再考、カリキュラムの再編が必要ではないかと感じている。</li> </ul>
<p>沿岸南部 (大船渡市、陸前高田市、住田町、釜石市、大槌町)</p>	<p>令和7年 6月4日(水) 14:00～16:00</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医師となる人材を地域で育成していくという観点から、医学部進学コース等を設置し、医療人材育成にも取り組んでいただきたい。</li> <li>・ 1学級校もできる限り維持するという後期計画の考え方について、次期再編計画でも踏襲していただきたい。</li> <li>・ 少子化等の影響を考えると、県立高校の再編は絶対に必要だと考えるが、単に人数により統合するのではなく、ビジョンを持った統合としてもらいたい。</li> <li>・ 地域みらい留学や地域連携コーディネーターの導入は学校の活性化に有効だと考える。学校の運営を教員だけに任せず、自治体と連携した支援が重要である。</li> <li>・ 中学校の不登校生徒の増加に伴い、定時制、通信制高校の選択肢を拡充すべき。また、沿岸地域に定時制と通信制併設校を設置し、生徒の選択肢を増やすことが必要ではないか。</li> </ul>
<p>宮古 (宮古市、山田町、岩泉町、田野畑村)</p>	<p>令和7年 6月5日(木) 10:00～12:00</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域から高校が無くなることは、保護者の通学負担増や町外流出等の問題を抱えることになる。東日本大震災の被災による人口減少が大きい地域については、他の人口減少地域と同一視して再編を進めないように留意していただきたい。</li> <li>・ 学区は盛岡地区への一極集中を防ぐために設定されているものと理解していたが、盛岡地区でも生徒数減少が進む中、学区制の撤廃により県内全域で自由に進学できる仕組みを検討するべきではないか。</li> <li>・ 高校教育の在り方を考える際には、地域の産業に適した学科配置となるよう検討していただきたい。</li> <li>・ 専門高校の魅力を感じる機会がないまま普通高校への進学が一般化しているのではないかと。地元に残りたい生徒のためにも、工業、商業高校の価値を高め、進学の実績として魅力を持たせるべきである。</li> <li>・ 定時制、通信制高校について、今後、多部制や単位制のニーズが増えてくると予想される中、沿岸地区にも多部制、単位制の定時制高校が必要なのではないか。</li> <li>・ 小規模校、大規模校それぞれの特性を活かし、子ども中心の教育を推進していくべきである。</li> </ul>
<p>県北① (久慈市、洋野町、野田村、普代村)</p>	<p>令和7年 5月26日(月) 14:00～16:00</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東北本線沿いと違い、盛岡の学校に簡単に通えるという状況ではないことから、子どもたちの学習機会を確保する必要がある。</li> <li>・ 中学校卒業生について、5年後には今年度と比較して85%、10年後には60%を切るということを考えれば、普通科については集約していく必要がある。一方で、久慈地区の産業に合わせたアパレル関係、工業土木関係、水産関係といった学科の存続は必要だと考える。</li> <li>・ 少子化が進む中で、学校規模によらず、平等公平に高校教育を受けられるようにしてもらいたい。</li> <li>・ 定数を35人にすれば財政負担が生じると思うが、ドイツやアメリカのように30人程度にしていかなければ、将来、危機的状況になることを危惧している。</li> </ul>

ブロック	開催日	主な意見・提言等
<p>県北② (二戸市、軽米町、 九戸村、一戸町)</p>	<p>令和7年 5月23日(金) 14:30～16:30</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1学級の定員を40人から35人に出来ないか、検討していただきたい。</li> <li>・ どうすれば地元の中学生在が地元の高校に進学するのかを考えたときに、学習面で差が出ないように施策が必要なのではないか。</li> <li>・ 各地域に高校を1校は維持した上で、地域の生徒が地元の高校を選ぶために、地元の高校の魅力を発信していただきたい。</li> <li>・ 遠隔教育を小規模校に限らず進めることで、科目開設の幅が広がるのではないか。また、教員の複数校勤務、きめ細やかな指導の導入を検討すべきではないか。</li> <li>・ 医師確保やIT人材の育成も重要であるが、小規模校で行われている、一人一人に寄り添った教育も重要であり、そのような学校を必要としている生徒も増加している。</li> <li>・ 小規模校だからこそ遠隔教育においても教員の丁寧なフォローがあるとか、学校間連携を可能にするとか、教育条件の改善を早急に進める必要がある。</li> <li>・ 高校の授業料無償化や併願制の導入により小規模校の存続が厳しくなる。入学者数が2年連続20人以下となった場合、募集停止となる基準の適用については、より慎重に検討していただきたい。</li> </ul>



## 今後の県立高校に関する地域検討会議（宮古地区） 意見交換の記録（要旨）

【宮古市、山田町、岩泉町、田野畑村】

令和7年6月5日（木）  
宮古地区合同庁舎 3階大会議室

### 佐藤 信逸 山田町長

- ・ 現在の県立高校再編計画においては、1学級校を可能な限り維持する等、柔軟な対応を行うこととしており、今後も同様の対応を検討していただきたい。
- ・ 高校と地域の連携強化のためには、地域連携コーディネーターの配置が欠かせないものとする。
- ・ 地域から高校が無くなることは、保護者の通学負担増や町外流出等の問題を抱えることになる。東日本大震災の被災による人口減少が大きい地域については、他の人口減少地域と同一視して再編を進めないように留意していただきたい。
- ・ 次期県立高校再編計画においては、入学者の2年連続20人以下での募集停止基準の撤廃や、各学校の定員数の調整をお願いしたい。

### 中居 健一 岩泉町長

- ・ 持続可能なまちづくりのためには、高校と病院の維持が不可欠である。本町は、本州一広い面積を有する地域であることから、高校の存続について配慮していただきたい。
- ・ 人口減少は国家存亡の危機であり、市町村と県が連携した総合的な対策が必要である。高校教育についてもその一つとして議論をしていくべきではないか。
- ・ 岩泉町では高校存続のために、通学支援等も含め様々な財政支援を実施している。県の具体的な通学支援策の内容について伺いたい。
- ・ 令和8年度からいわて留学にも本格的に取り組むこととしているが、県教委としても市町村に対する支援を実施していただきたい。
- ・ 現在の特例校については、今後も維持していただきたい。

### 佐々木 靖 田野畑村長

- ・ 地理的要因により進学の実選択肢が限られるため、進学を断念する生徒を出さないよう、岩泉高校の維持を強く要望する。
- ・ いわて留学について、県内で生徒を奪い合うのではなく、全国から受け入れる仕組みは重要であり、その際、岩泉高校の寮や郷土芸能は大きな魅力となる。
- ・ 学区は盛岡地区への一極集中を防ぐために設定されているものと理解していたが、盛岡地区でも生徒数減少が進む中、学区制の撤廃により県内全域で自由に進学できる仕組みを検討するべきではないか。
- ・ 水産業に関わるニーズもあることから、水産高校の振興発展に向けての努力を期待する。

### 伊藤 重行 宮古商工会議所 専務理事

- ・ 商工会議所の景況調査によると、令和4年以降、労働力不足が常態化している。高校教育の在り方を考える際には、地域の産業に適した学科配置となるよう検討していただきたい。
- ・ 宮古商工高校の工業学科のカリキュラムでは、実践的な教育内容が不足していることから、地域の特色ある産業に対応したカリキュラムとすることも必要ではないか。その際は、地域の要望等を聴く機会を作っていただきたい。

#### **前田 宏紀 田老町漁業協同組合 参事**

- ・ 宮古北高校のような小規模校は、地域との関わりが深く地域社会に貢献しているため、そういった特色を考慮して存続させて欲しい。
- ・ 水産業も人材不足が深刻であることから、宮古水産高校を統合する場合でも、水産の学科は維持し、地域産業に必要な人材の育成を継続するべきである。

#### **山崎 淳一 山田町商工会 会長**

- ・ 山田高校を存続させて欲しいというのが本音ではあるが、少子化に伴う統廃合もやむを得ないと考えている。
- ・ 山田町の祭りへの中学生の積極的参加が、地域愛を育む重要な役割を果たしている。
- ・ 数年前の中学3年生へのアンケートでは、多くが地元に残りたいと回答した。そうした希望に大人が応えるためにも、町の存続への取組を強化していく必要がある。

#### **菊地 敏克 三陸やまだ漁業協同組合 代表理事組合長**

- ・ 少子化により漁業従事者が減少していることから、小中学校で漁業体験学習を実施し、若者が漁業に興味を持つ機会を増やしている。
- ・ 高校進学率は99%と高いが、高校卒業後に地元の企業等で働けるような学びの方法を検討していただきたい。

#### **早野 崇 有限会社早野商店 代表取締役**

- ・ 専門高校の魅力を感じる機会がないまま普通高校への進学が一般化しているのではないか。地元に残りたい生徒のためにも、工業、商業高校の価値を高め、進学の実績として魅力を持たせるべきである。
- ・ 将来的な人口減少を考慮し、工業、商業高校を集約した上で、寮整備等の通学支援により学習環境を確保するべきではないか。
- ・ 水産業は加工、流通も含めた成長産業であり、水産高校と商業高校を統合して、商品化まで含めた教育を推進していくべきである。
- ・ 半導体学科の新設を内陸だけでなく沿岸部にも設け、地域の子どもたちが将来Uターンして地元産業を活性化できる環境を整えるべきではないか。

#### **加藤 榮喜 農業**

- ・ 農業は工夫次第で収益を上げられるが、品目選定が重要である。
- ・ 小学生への農業体験学習を通じて、農業の魅力を伝える取組を実施している。自分で植えた作物を収穫する喜びが農業の魅力である。
- ・ 農業、水産業、商工業が地域の基盤であり、活性化には一次産業の振興が不可欠である。

#### **熊谷 吉秀 田野畑村森林組合 代表理事組合長**

- ・ 林業は高収益性があるものの、危険な職業として若者に敬遠されることから後継者育成が重要な課題となっている。
- ・ かつては寮生活によって自立心が育成されていたが、現代の子どもたちは挫折しやすい傾向がある。
- ・ 長期ビジョンの内容については素晴らしいと感じているが、現状も踏まえながら進めていく必要がある。
- ・ 子どもたちが「親の仕事を継ぎたい」と思える環境づくりが不可欠であり、産業の魅力を伝える教育施策を検討していただきたい。

#### **小野寺 康仁 宮古市PTA連合会 会長**

- ・ 長期ビジョンに関し子どもから意見を聴いたとのことだが、約 5600 件の回答があったとのこと  
で、子どもたちの関心の高さが示されていると感じた。今後も継続的に意見を聴取していただき  
たい。また、長期ビジョン策定の参考とした意見の内容について教えていただきたい。
- ・ 宮古市の人口減少が進む中、持続可能な地域づくりの実現性に疑問を感じている。現実的な対応  
策の検討が求められる。
- ・ GIGA スクール構想により学習環境は向上したが、教育機会の公平性についてさらなる議論が必要  
ではないか。
- ・ 宮古市のコンパクトシティ構想など、各自治体の計画を考慮した県立高校再編計画として欲しい。

#### **大石 裕治 山田町立山田中学校PTA 会長**

- ・ 地域の中学生は地元愛が強いが、高校進学時の選択肢として山田高校の優先度が低い状況である。  
宮古地区の高校の定員を調整し、適正な生徒数の確保が必要ではないか。
- ・ 宮古高校や宮古商工高校への進学希望が高く、定員を適正化しなければ山田高校の生徒数減少が  
続くと思われる。

#### **金澤 辰則 岩泉町立小本中学校PTA**

- ・ この会議の参加者に女性がいないことに違和感がある。多様性が求められている中、女性の声を  
反映する必要もあるのではないか。
- ・ 各校で魅力化に取り組んでいるが、存続のために魅力化を進めているように感じるので、発信方  
法の工夫が必要ではないか。
- ・ 地方や小規模校でも多様な経験ができることを発信する必要があるのではないか。また、顔が見  
える環境が地域の魅力でもある。

#### **伊藤 晃二 宮古市教育委員会 教育長**

- ・ 久慈翔北高校、高田高校の水産の学びを宮古水産高校に集約する必要があるのではないか。それ  
ぞれの地区では抵抗感も少ないと思われるので、水産の学びの集約を検討していただきたい。
- ・ 宮古商工高校、宮古水産高校の一体整備については、新しい校舎建設が魅力化の向上にもつな  
がることから、早期に対応をしていただきたい。
- ・ 宮古恵風支援学校の交通アクセスに課題があることから、新たな環境での学びの場の整備が必要  
である。宮古北高校や宮古市内の閉校した学校の活用も含めて検討していただきたい。

#### **松葉 覚 山田町教育委員会 教育長**

- ・ 中学生は将来の職業だけでなく部活動の継続を考慮して高校を選択している。
- ・ 決められた部活動のみでは選択肢が狭まるため、自由度の高い部活動環境や高校間交流の可能性  
についても検討していただきたい。
- ・ 部活動の地域移行は地域展開という言葉に変わってきている。地域展開となれば高校生にも当て  
はまっていくと思われるので、部活動の在り方についても検討していただきたい。

#### **巖岩 千裕 岩泉町教育委員会 教育長**

- ・ 岩泉高校については、学習指導や生徒指導への対応のためにも 2 学級維持が必要である。
- ・ 小学校から高校への連携を強化し、子どもたちが地元の高校に憧れを持つ環境づくりを進めるこ  
とが重要である。
- ・ 岩泉町の中学生は、様々な地区の高校に進学している。それと同じように、岩泉高校の魅力を発

信し、様々な地区から進学先として選ばれる学校になればよいと考えている。

- ・ 岩泉高校の寮を町が活用できるよう、県施設の払い下げを要望したい。

#### **藤岡 宏章 田野畑村教育委員会 教育長**

- ・ 長期ビジョンにおいて6次産業化の記載があることは評価する。一方で、6次産業化に対応した教育課程を組むのであれば、例えば、農業については6地区の中に空白地区があることに疑問がある。地域産業と生徒ニーズを引き合わせるような考え方があってもよいのではないか。
- ・ 定時制、通信制高校について、今後、多部制や単位制のニーズが増えてくると予想される中、沿岸地区にも多部制、単位制の定時制高校が必要なのではないか。
- ・ 単位制導入については、中学生も興味を持つ部分であることから、詳細について丁寧に説明していただけると、中学生の進路指導に役立つと思われる。

#### **一ノ倉 眞吾 宮古地区中学校長会（宮古市立宮古西中学校長）**

- ・ 宮古地区では多様な高校があるが、生活に困窮する家庭も多い。そうした家庭の生徒は、地元の高校を選択する傾向にある。
- ・ 少子化により学級数を減らす必要があることは理解するが、学校の廃止はそうした家庭に影響が大きいことから慎重に判断していただきたい。
- ・ 特別な支援を必要とする生徒や別室登校の生徒が増加しており、単位制・通信制高校を選択する傾向があることから、次期県立高校再編計画の中でも配慮していただきたい。

#### **山本 正徳 宮古市長**

- ・ 小規模校、大規模校それぞれの特性を活かし、子ども中心の教育を推進していくべきである。
- ・ 宮古地区の中学生の約80%が市内の高校に進学しており、盛岡地区や私立高校等にも進学している生徒がいる。また、通信制や特別支援学校へ進学している生徒もいる。
- ・ 宮古水産高校では、新しい実習船の竣工や養殖実習などで水産高校の魅力が強化されている。そうした、興味を持つ生徒が進学しやすい環境整備が必要である。
- ・ 経済状況に関わらず、全ての生徒が平等に教育を受けられる環境の整備が、学校存続に繋がると考える。

#### **西川 信明 学校教育室高校改革課長**

- ・ 通学支援については、長期ビジョンに具体の支援策は記載していないが、公共交通機関の利用補助やバス運行、寮整備などを検討していく予定である。
- ・ いわて留学については、今年度、民間団体に委託し、マッチング機会の充実や受入環境整備について地元自治体に助言等の支援を実施する予定である。
- ・ 現行計画においては、募集停止基準として2年連続20人以下という基準を設定しているが、教育の質確保のため、最低20人の生徒数が必要であるとしているものである。
- ・ 学科改編については、条例改正を伴わないコースの設定という方法もあり、今後一体整備される宮古商工高校と宮古水産高校では、6次産業関連科目などの導入も期待される。
- ・ 私立高校の無償化については、今後も影響を注視し、対応を検討していく。
- ・ 子どもからの意見聴取において、関心のある項目として、「職業に関連する学習」、「主に大学進学を目指す学習」、「自宅から通える学校」といった項目が上位であった。特に、「自宅から通える学校」に対しては、今後、対応を検討していきたい。
- ・ 各市町村の県立高校に対する支援に対して感謝を申し上げる。

**佐藤 信逸 山田町長**

- ・ 高校授業料無償化に伴い私立高校への進学が集中することを懸念している。県教委でも県立高校の棲み分けについて考慮する必要があるのではないかと。
- ・ 募集停止の基準である 20 人については、柔軟な対応が必要であり、地域の特性や人口減少を考慮する必要がある。

**熊谷 吉秀 田野畑村森林組合 代表理事組合長**

- ・ 計画の検討に当たっては、生徒の声を直接聞く機会として、生徒会の生徒を集めて話を聞く機会があってもよいのではないかと。

**金澤 辰則 岩泉町立小本中学校 P T A**

- ・ 県内から県外に進学している生徒の人数は把握しているのか。

**西川 信明 学校教育室高校改革課長**

- ・ 宮古地区の 3 か年平均では、県外に進学している生徒は 3.3 人となっている。